

命を守る・  
平和をつくる

人道支援/  
平和構築

# イラク

子どもたちの心のケアと、  
コミュニティの「共生」の芽を育てるきっかけづくり

イラク戦争後の激しい宗派对立を経て、2013年ごろから過激派ISが台頭し、社会構造や人々の信頼関係が破壊されているイラク。人々の抱えるトラウマも深刻です。さらに隣国イランと米国の関係悪化の影響を受け、米軍が駐留するイラクは不安定な立場に置かれています。活動地であるキルクーク県は、元来多様な民族が共存する地域でしたが、豊富な石油資源を有することから、フセイン政権下でアラブ人の移住が進められ、民族間の感情が複雑になり、イラクの中でも状況が非常に厳しいとされる地域です。



「平和のひろば」に参加する子どもたち

## 子どもたちのための平和共生プログラム（キルクーク県）

**【活動概要】** 現地NGO「INSAN（インサーン）」との協力で、2009年より2012年まで異なる民族・宗派の子どもたちが「平和」「共生」の概念を一緒に学ぶ「平和ワークショップ」を実施しました。2015年からは「平和のひろば」として、上記に子どもの心のケアを加えた活動を実施しています。

**【成果】** 紛争の影響を受けている7～14歳の子どもたち72名を対象に、平和や共生について学ぶ20回のプログラムを夏の2か月間にわたり実施しま



さまざまな民族・宗派の子どもたちが、希望をこめて風船を飛ばす

した。キルクーク市内に「平和のひろば」を開設し、アートや演劇の手法を取り入れ、平和、多様性、共存などについて、多様な民族やグループの子どもたちが交流しながら一緒に学びました。例えば、子どもたちが皆で「最高の居場所」を作るアクティビティでは、お互いの大切なものや価値観を確認しながら、アートで表現しました。「異なる背景を持つ相手と出会うのは初めて」という子どもたちも少なくない中、インサーンのリードで多くの子が積極的にセッションに参加、互いを理解しようと努力し、交流を深めました。「平和のひろば」に参加した子どもたちの間に、民族や文化の違いを越えた共生の「芽」



過酷な経験をした子どもが描いた絵には『死ぬのが怖い』と書かれている

が生まれているといえます。

特に深刻な精神的問題を抱える22人に対しては、精神科医による個別カウンセリングおよび家族との面談など、重点的に精神的なケアを実施しました。また隔週で保護者会を実施、非暴力や平和共存の概念を伝え、生活の中でどう実践するかを大人にも考えてもらいました。その他、戦闘の影響による就学の遅れ等の問題があり、アラビア語や英語、算数などの補習授業を実施しました。また、過去のプログラムに参加した卒業生たちがボランティアとして活動に参加するほか、各自の学校でも平和共存に関する活動を自主的に行っています。さらに、この活動に関わることで生き方や人生が変わるスタッフもあり、平和を担う人材の育成という成果も出ています。この活動は子どもたちを主な対象にしていますが、子どもたちを通してその家族やコミュニティにアプローチし、平和共存の概念を地域に広げ、大規模な対立に発展することを防ぐ一助となることを目指しています。2019年度も、この活動を続けていきます。



治安が悪く外で遊べないので、室内でスポーツをする子どもたち